

研究企画書

(代表)研究者名	
----------	--

☆ ②～⑥は、できるだけ箇条書きにして、要点を簡潔・明瞭に記入してください。

① 研究テーマ(タイトル) 1ページの「研究テーマ(タイトル)」と合わせてください。

高校生が英語でまとまりのある文章を書くための「文章の構成」と「文と文のつながり」に焦点をあてたピア・フィードバック活動

② 目的および期待される成果

高校学習指導要領では、自分の考えなどをまとまりのある文章で書くことの必要性が謳われているが、一般に学校現場では英作文の継続的な指導は難しいと考えられ、実際、文科省の昨年度の調査では高校3年生のまとまりのある文章を書く力の遅れが指摘されている。一方で、大学入試で求められる作文能力は和文英訳中心から自由英作文に移りつつあり、英語でまとまりのある文章を書く指導の必要性は高まっている。

英作文のフィードバックについては、教師と生徒両方の両方があるが、生徒同士のピア・フィードバックでは、フィードバックの対象だけでなく生徒の学力や意識の違いによって効果に差が出るのが指摘されている。

本研究の目的は生徒がまとまりのある文章の書き方を継続的に学びあうようになることであり、「文章の構成」と「文と文のつながり」の2つに焦点を当てたピア・フィードバック・シートを用いることで生徒の学力差に配慮し、さらにその記述内容に関する生徒同士の話し合いを授業に取り入れることで生徒の意識を高める。これにより生徒がまとまりのある文章を書くための要点を理解し、継続的な活動によって必要なストラテジーを身につけることが期待される。

③ 特色 従来の研究などにあまり見られない特徴やアイデアについて説明してください。

ピア・フィードバックの効果には、自己推敲を促す(岡部, 2011)であるとか、生徒同士では文法などの誤りにばかり注目しがちである(Villamil & De Guerrero, 1998)など、様々な意見があるが、あらかじめ「文章の構成」と「文と文のつながり」に焦点を当てている先行研究は少ない。この研究では、文章のまとまりに焦点を絞ったフィードバック・シートの活用とそれに基づいたインタラクションにより、生徒の注意を文章構成などに集中させ、学力差や生徒の意識の違いにかかわらず円滑なフィードバック活動ができるようにすることで、まとまりのある文章を書く力の育成を図る点が特徴である。

④ 構想・方法

① 採用する理論や文献、研究などの方法・規模、結果の評価分析法などについて、具体的に説明してください。

② 「どのように行うのか」に重点を置いてください。理論・文献の説明だけの記述は好ましくありません。

高校3年生約60人に対して、1週3時間、約半年間の英作文指導を行う。事前に英語熟達度テスト、事前アンケート、作文プレテストを行い、生徒の英語力、作文力、作文やフィードバックに対する考え方等を調べる。作文の書き方、ピア・フィードバックの仕方について指導した後、別々のトピックで作文を5回、それぞれの作文に対し書き直しを1回ずつの計10回のライティングを行う。各タスクは、「原稿作成→ピア・フィードバック→書き直し→発表や提出」という流れをたどる。約半年の指導後に、事後アンケートと作文ポストテストを実施し、指導の効果を検証する。

ピア・フィードバックでは、フィードバック・シートを使用して、生徒が互いに作文を評価し、話し合いによって具体的な改善点を提案し合う。シート使用の目的は、フィードバックの焦点を「文章の構成」「文と文のつながり」にあてさせることである。

「文と文のつながり」については、「一貫性」と「結束性」に注目させる。特に「結束性」については、Halliday & Hasan (1976)が提唱している5つの要素から、高校生でも分かりやすいと思われる、指示語と接続関係の2つを扱う。

分析方法としては、作文プレテストと作文ポストテストの質と量を比較する。質の比較には、Jacobs, et al. (1981)などの先行研究を参考に高校生の作文評価用に作成した分析的評価表を用い、点数の変化を観察する。量については、Wolf-Quintero, Inagaki, and Kim (1998)等に基づき、「流暢さ」の指標である作文の総語数を比較する。また、英語熟達度の差によって作文の量と質の変化に違いがあるのかも分析する。さらに、作文の量や質に顕著な変化が現れた生徒について、文章の書き直しの過程や意識にどのような変化が現れたのかを、アンケート結果や各作文と併せて考察する。

⑤ これまでの経過・準備状況

応募テーマ(企画内容)は、他の団体から委託されていないもの、過去に発表されていないものが条件です。(修士論文なども含む)

この研究に関してすでに着手している部分、あるいは準備している状況があれば説明してください。

昨年度、高校1年生3クラスを対象に、2ヶ月間で英作文指導における「文章の構成」「文と文のつながり」に焦点をあてた3種類のフィードバック活動(教師FB 1種類、ピアFB 2種類)を実施し、効果について比較検証した。どのクラスも「内容」「構成」「一貫性・結束性」が向上したが、指導法についての有意な差は見られなかった。使用したフィードバック・シートは、大井(2003)を参考に、作文評価表は Jacobs, et al. (1981)、望月他(2005)、Kuru, Masaki, and Kinshi. (2009)などを参考に応募者が作成した。これらの使用経験を基に現在改善中である。

⑥ 学会や機関誌等での発表状況

⑤とあわせてこの研究テーマに関連した研究内容を過去に発表した(又は発表する予定がある)場合、その詳細(年月日、学会名、タイトル名等)を記入してください。

昨年度実施した調査について、平成●●年●月の●●学会で発表予定。